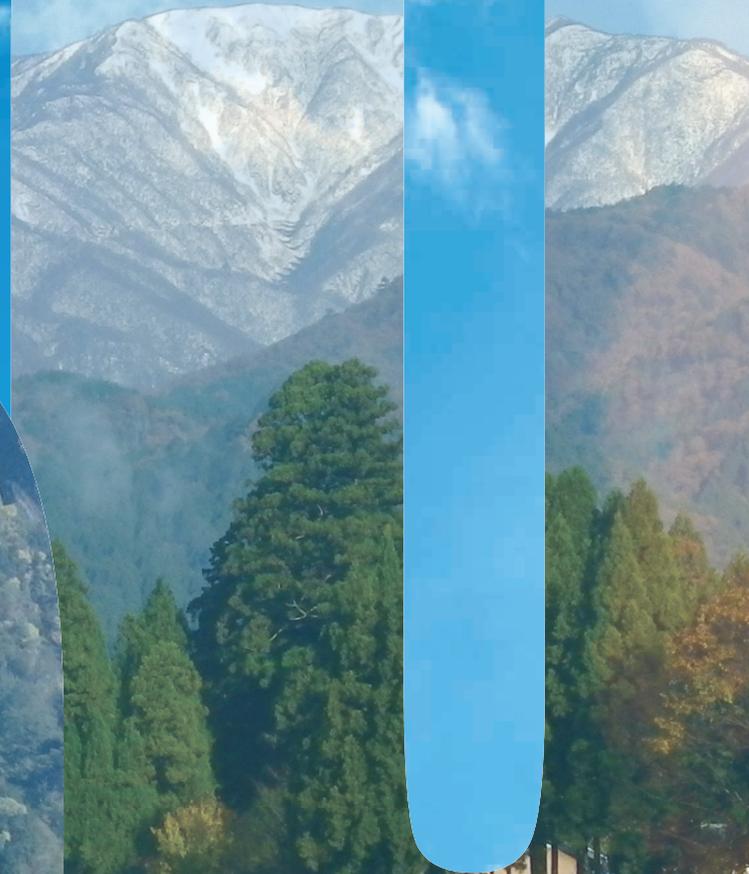




越美山系砂防事業  
50年記念誌



Etsumi Sankei  
Sabo Project

50th  
anniversary



おかげさまで  
越美山系砂防事業50年



おかげさまで、越美山系砂防事業は  
50年を、迎えることができました。今後も、  
砂防事業を推進し、地域の安全と安心の  
向上に邁進します。

2

越美山系の豊かな自然、  
安全な暮らしを支えています。

3

## Contents

ごあいさつ	4
越美山系砂防事務所 所長 吉野 睦	
祝 辞	5
揖斐川町 町長 富田 和弘	
本巣市 市長 藤原 勉	

## 事業概要

越美山系砂防事務所と災害の歴史	6
管内の地域特性①	8
管内の地域特性②	10
揖斐川流域の三大崩壊地	
管内の自然と歴史	12
砂防事業のあゆみ①	14
砂防施設	
砂防事業のあゆみ②	16
主な砂防事業	
砂防事業効果	18
土石流を捕捉する砂防堰堤	
災害への備え	20
TEC-FORCEでの災害支援	
地域との連携、広報活動①	23
地域との連携、広報活動②	24
地域との連携、広報活動③	26
歴代所長からの便り	27
事業費の推移	30

越美山系砂防事務所  
所長  
吉野 睦



揖斐川の上流域は岐阜県で最も雨量が多い地域です。加えて1891年には国内最大級の内陸地震である濃尾地震が発生し地盤に影響が現れており土砂災害が発生しやすい地域であるといえます。1965年に発生した奥越豪雨では越美山系が位置する岐阜県及び福井県で大きな被害が生じました。この災害を契機に当時の建設省中部地方建設局が調査に着手し越美山系砂防事業を1968年に始めました。当時は福井県側での事業も想定に入れ調査に着手しましたが後に近畿地方建設局に調査成果を引き渡し福井工事事務所が真名川砂防事業として事業着手しています。

着手時は揖斐郡坂内村、藤橋村、徳山村、本巣郡根尾村内の揖斐川と支川根尾川の上流部を管内として工事に着手しましたが1990年に久瀬村にエリアを広げ現在は自治体の市町村合併により揖斐郡揖斐川町と本巣市にまたがる873km<sup>2</sup>が管内となっています。2019年3月までの50年間に193基の砂防施設を整備し地域の安全、安心や生活の場の確保に貢献できたと考えています。

本誌は事業開始50年の機会にこれまでの事業の取り組みをまとめ地域の方々に事業への理解を深めて頂くことを目的に作成しました。越美山系砂防事業は地域や流域の住民の皆さま、自治体や建設産業の方々の多大な支援や協力により事業をここまで進捗することができました。今後も地域の期待に答え安全、安心の確保に努めてまいりますのでご理解、ご支援をお願いいたします。

揖斐川町 町長  
富田 和弘



このたび、国土交通省中部地方整備局越美山系砂防事務所が、事業開始から50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

揖斐川流域は、緑豊かな山や、美しい川といった自然に恵まれた豊かな大地ですが、一方で、急峻な地形、崩れやすい地質で形成され、降雨量も多いことから、昔から大規模な地すべりなど、土砂災害にみまわれてきました。

こうした状況の中、50年もの長きにわたり中部地方整備局 越美山系砂防事務所の関係各位におかれましては、砂防事業の推進や土砂災害防止等に、ご尽力いただいておりますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

また近年では、地球温暖化等の気候変動が誘因とされる短期的・局地的豪雨や大規模地震が、全国至るところで発生しており、いつ何時この越美山系において災害が発生しても不思議ではない状況となっております。

今後におきましても、地元関係機関や地域の方々との連携体制の構築を行うと共に、砂防事業推進による、治水、災害防除の観点から「安全・安心の地域づくり」につきまして、より一層のご指導と、ご協力をお願い申し上げます次第であります。

最後になりましたが、事業開始50周年を契機として、貴事務所の更なる発展と、関係者各位のご健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本巣市 市長  
藤原 勉



越美山系砂防事務所におかれましては、昭和43年に開所以来数々の砂防事業に着手していただき、50周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

近年は、気候や地殻変動などの影響により、大規模な土砂災害の発生が危惧される中、砂防関係者の弛みない努力により土砂災害発生時の被害の軽減にご尽力いただいているところでございます。

本市においても北部地域は急峻な山が多く、山崩れなど災害が発生しやすい地域であります。砂防施設の工事現場はこのような危険な箇所ではございますが、施設整備が着々と実施され、災害や難工事を乗り越え、熱意と志をもって砂防事業に推進していただいておりますことに深く感謝申し上げます。

砂防対策は市民の安全確保にあたって極めて重要であり、災害に強い基盤整備が一層求められていることから、今後とも地域住民の生命・財産を守り、安全で安心して住めるまちづくりを進めるためにも、砂防関係事業に一層のご尽力を申し上げ、貴事務所の益々のご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



事務所の出来事 災害

# 明治

## ●伊勢湾台風

9月23日、台風15号(伊勢湾台風)となった熱帯低気圧は、26日午後7時に奈良県中部に、9時には鈴鹿峠付近を通り、毎時60kmないし75kmの速さで、午後11時には揖斐川流域を襲いました。



台風進路の降雨の強い右半円にさらされた東海地方は台風史上かつてない大災害に見舞われました。岐阜県下の被害は死者行方不明者108名、重軽傷者1,709名、家屋の流失を含む全半壊16,086棟、床上・床下浸水11,089棟にのぼりました。

## ●砂防調査開始

9月に発生した徳山白谷、根尾白谷の2つの大崩落を受けて、11月には揖斐川上流域の砂防調査が開始されました。

## ●越美山系砂防工事事務所発足

2月に事務所が発足し堤防の整備に着手しました。



## ●全国で「土石流危険渓流・区域調査」を実施

昭和53～55年度の3ヶ年で実施され、越美山系砂防工事事務所管内でも調査が行われました。

## ●昭和61年災害

8月21日から22日にかけての雨は、本巣市根尾の松田観測所で時間最大雨量104mmを記録するなど、局地的な集中豪雨となり、各地で土石災害や河川の氾濫などが発生しました。本巣市根尾松田地区では土石流災害が発生し、特に筋ヶ洞谷では、下流の民家が土砂で埋没するなどの被害が発生しました。



## ●平成10年災害

7月28日の豪雨により、本巣市根尾各地で土砂災害が発生。越波地区や下大須地区などで土砂災害が発生しました。また、10月の台風による豪雨では、旧藤橋村東横山地区の梶谷において土砂が流出し、下流家屋に被害が生じました。



明治24年  
(1891年)

昭和34年  
(1959年)

昭和40年  
(1965年)

昭和43年  
(1968年)

昭和50年  
(1975年)

昭和53年  
(1978年)

昭和59年  
(1984年)

昭和61年  
(1986年)

平成元年  
(1989年)

平成4年  
(1992年)

平成10年  
(1998年)

## ●濃尾地震



10月28日旧根尾村水鳥を震源として発生した濃尾地震(M8.0)は我が国の内陸部に起こった直下型地震としては過去最大のものでした。震央の岐阜県北西部では断層が形成され、最も顕著なのが水鳥に出現した断層で、上下変位5～6m、水平変位2～4mに達しました。

## ●奥越豪雨



9月6日に発生した台風23号と、これに続く台風24号、さらに日本付近に停滞している前線によって、多大な被害を被りました。14日午後から南東の風が吹き込み、雨が次第に強くなり、揖斐川上流域、根尾川上流域の山間部は局地的な豪雨にみまわれ、特に旧徳山村(現揖斐川町)、権現山(能郷白山)では日雨量700mmを越えました。この豪雨によって旧徳山村で小学校が山崩れによって倒壊し、教師が1人死亡しました。

## ●昭和50年災害



8月21日から23日にかけての台風6号による集中豪雨は、伊勢湾台風を上回る豪雨となり、旧坂内村広瀬では総雨量が750.4mmに達しました。この集中豪雨に直撃された旧坂内村ではいたる所で谷川が氾濫しました。特に坂本地区の友谷や、川上浅又川等では土石流が発生し、家屋全壊1戸、半壊3戸等多大な被害をもたらしました。

## ●能郷第3砂防堰堤完成



管内で最初となる透過式の砂防堰堤でした。

## ●平成元年災害



9月1日から7日にかけての秋雨前線の影響による集中豪雨は、本巣市根尾樽見地区を中心に総雨量600mmを越す記録的な豪雨となりました。この豪雨により旧久瀬村小津を含め各地の小溪流において土石流が発生し、家屋や道路等に多大な被害を及ぼしました。

## ●「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」の第1次指定

3月31日での指定を受け、必要な砂防堰堤の魚道の設置を開始しました。

# 昭和

## ●事業開始50年

## ●越美山系大規模土砂災害危機管理連絡調整会を設立

大規模な土砂災害が発生または発生のある恐れがある場合等に、必要と考えられる対策を実施するため、関係機関との認識を共有するための情報交換を行うとともに、災害時の役割分担や連携内容を調整することで、関係機関と連携した危機管理体制の充実強化を図ることを目的に設立されました。

## ●揖斐川町坂内川での土砂・流木流出

台風16号により9月17～18日に、揖斐川町坂内川又品谷で土砂・流木が流出。流木による橋梁の閉塞(土砂の堰上げ)も発生しました。



## ●八草川 山腹崩壊

1月11日、揖斐川町坂内川上土地内で発生。高さ約80m、深さ約10m、約2万㎡の崩壊土砂が八草川に流入しました。



## ●東横山地すべり

揖斐川町東横山地区にて、4月中旬より小規模の崩壊が発生。その後、5月10日～11日の降雨により、5月12日～13日にかけて、2回の大規模な地すべりが発生しました。



## ●越美山系砂防事務所名称変更

4月、越美山系砂防工事事務所から越美山系砂防事務所へ名称を変更しました。

## ●調査課が発足

4月、新組織として発足させました。

平成30年  
(2018年)

平成26年  
(2014年)

平成24年  
(2012年)

平成23年  
(2011年)

平成22年  
(2010年)

平成20年  
(2008年)

平成18年  
(2006年)

平成15年  
(2003年)

平成14年  
(2002年)

平成13年  
(2001年)

平成11年  
(1999年)

## ●根尾大河原で土石流発生



台風11号により8月10日、本巣市根尾大河原で土石流が発生。国道157号に土砂が流出、路上に堆積しました。

## ●根尾越波での土石流



8月24日～25日の集中豪雨により、本巣市根尾越波周辺で土石流が発生しました。

## ●西濃豪雨



9月2日～3日にかけて日本海と四国沖にある低気圧の影響で、岐阜県西濃地方と三重県北勢地方では記録的な大雨となりました。9月2日からの降り始めからの雨量は揖斐川町東津波にある小津観測所(国交省)で579mmを記録した。この大雨により各地の溪流で土砂流出が発生し、揖斐川町東津波の下谷では土石流により国道303号が約39時間にわたって通行止めとなった。

## ●台風6号災害



7月9日から10日にかけて台風6号の北上により本州付近に停滞する梅雨前線の活動が活発化し、岐阜県西濃地方は時間100mmを超える雨量を観測しました。旧藤橋村東横山地区では崩壊による流出土砂や流木が防火水槽に堆積し、あふれた水により浸水被害が発生しました。また、本巣市根尾においても東横山地区や松田地区などで浸水被害が発生し、特に水鳥地区の地震断層観測館においては全館が1.5mほど水没したため、長期間の休館を余儀なくされるなど多大な被害を及ぼしました。

## ●本庁舎完成



11月、新しい本庁舎が完成しました。

# 平成

## 急峻な地形に、脆弱な地質、そこに気象条件が重なることで

越美山系砂防事業管内は、標高1,300m級の山々が連なる険しい地形を持ち、そこに無数の活断層が走る脆弱な地質となっています。これに加えて、年間降水量が3,000mmを超える岐阜県随一の多雨多雪地帯という、非常に厳しい自然条件が重なる地域です。



### 地形

#### 険しい山々と谷、そして急流

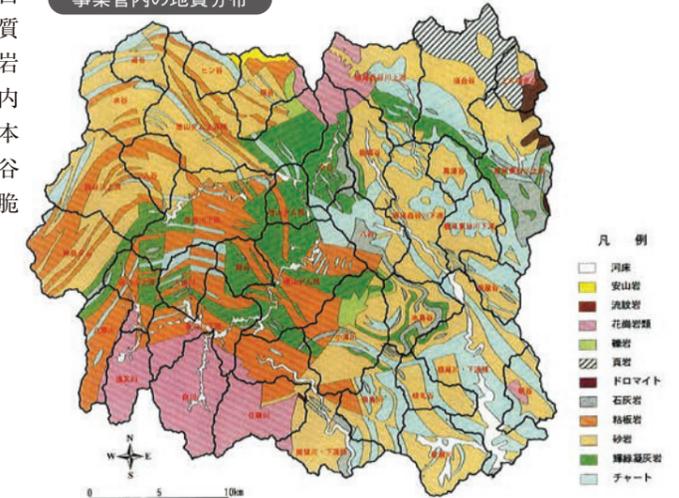
越美山系砂防事業管内は、揖斐川上流域となる岐阜県揖斐郡揖斐川町及び本巣市根尾の867.9km<sup>2</sup>(揖斐川本流の流域面積の約半分)です。流域の地形は、北西部を標高1,300m級の越美山地によりさえぎられ、急勾配の溪流が多くあります。

### 地質

#### 崩れやすい地質に無数の活断層

地質は、全体に秩父古生層で占められ、揖斐川流域の花崗岩・泥質混在岩、根尾川流域の砂岩・粘板岩の互層に大別されます。また、流域内には、1891年濃尾地震(震源地は本巣市根尾水鳥)が発生した根尾谷断層等の活断層が多数分布し、脆弱な地質となっています。

事業管内の地質分布



国指定特別天然記念物「根尾谷断層」



地震発生当時の活断層



現在の活断層



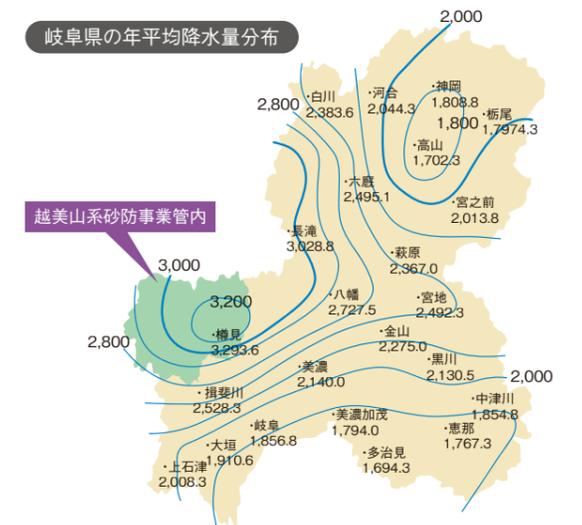
地震断層観察館

### 気象

#### 県内でも有数の多雨地帯

風の流れにより、雨は最も西側に位置する揖斐川流域から降り始め、洪水も最初に発生します。揖斐・長良・木曾の木曾三川流域の1年間に降る雨の量は、雨が最初に降り初める揖斐川流域が最も多く、上流域では3,000mm以上の降雨が観測されています。

岐阜県の年平均降水量分布



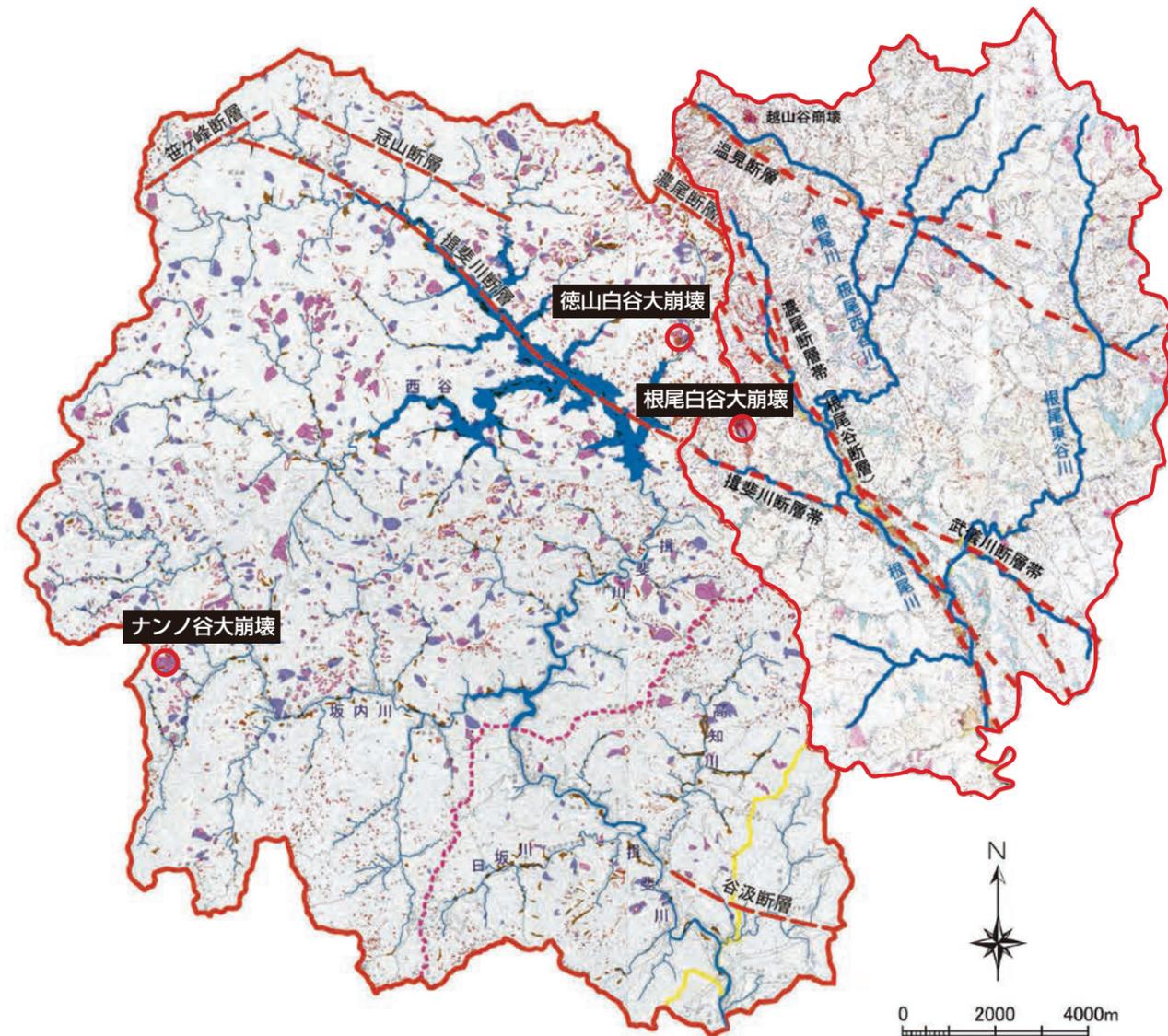
## 繰り返される大規模な土砂災害の歴史

高い山々と深い谷が作り出す急峻な地形と、多数の活断層が点在する脆弱な地形、そして豪雨を引き起こしやすい気象条件。

これらの要素が重なることで、何度も土砂災害に見舞われる歴史が繰り返され、越美山系砂防事業管内には無数の崩壊地の痕跡を見ることができます。

こうした土砂災害の中でも深刻なのが、土砂量が100万m<sup>3</sup>を超える「深層崩壊」で、管内の揖斐川流域には歴史的な三大崩壊地が残っています。

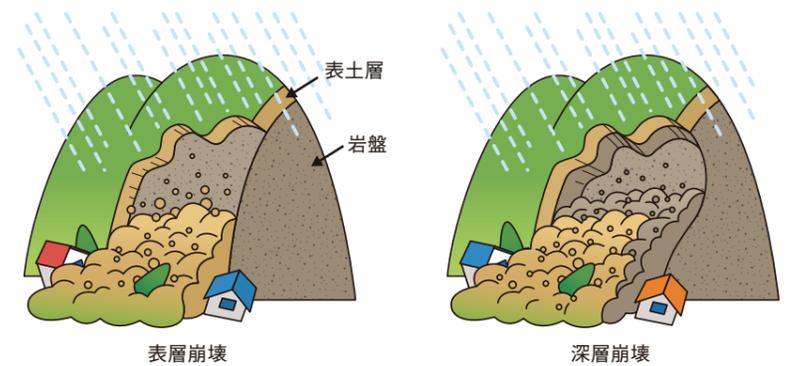
### ■管内には、無数の崩壊地の痕跡が残されています



### 深層崩壊とは？

山崩れ・崖崩れなどの斜面崩壊のうち、すべり面が表層崩壊よりも深部で発生し、表土層だけでなく深層の地盤までもが崩壊土塊となる比較的規模の大きな崩壊現象。

※(「改訂 砂防用語集」)



#### 特徴

- 1) 斜面を構成する土塊は崩壊と同時にバラバラになって移動するか、あるいは原形を留めてすべり始めた後にバラバラになる。
- 2) 崩壊土塊(土砂)は高速で移動する。
- 3) 崩壊土塊(土砂)の大部分は崩壊範囲の外へ移動するが多い。

### ■揖斐川流域の三大崩壊地

1895年ナンノ谷、1965年徳山白谷、根尾白谷で大きな山崩れが発生しました。この三大崩壊は、1891年の濃尾地震とその後の集中豪雨などによって地盤が緩んだことが要因の一つだといわれています。

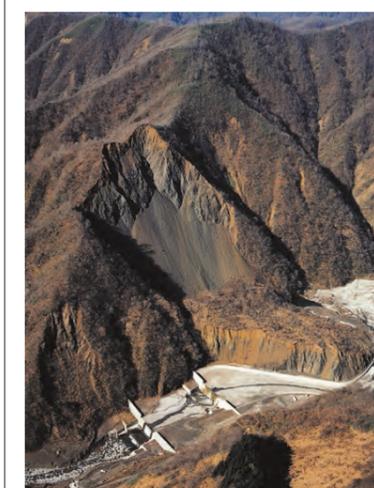
#### ナンノ谷大崩壊



1895年8月5日、岐阜県揖斐郡揖斐川町坂内川上のナンノ谷で大雨による大規模な崩壊が発生しました。濃尾地震の4年後でもあり、地震による影響を大きく受けたものと考えられています。

2度発生した崩壊の推定の崩壊土砂量は約153万m<sup>3</sup>で、高さ約38mの天然ダムを形成しました。8月11日には天然ダムが決壊し、揖斐川町坂内川上、広瀬、坂本などで死者4名、流失家屋23戸の災害が発生しました。

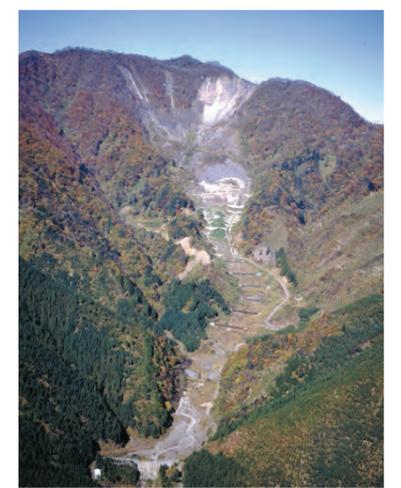
#### 徳山白谷大崩壊



1965年9月14日～15日にかけての集中豪雨により、揖斐川支溪の徳山白谷で大規模な崩壊が発生しました。崩壊土砂量は約183万m<sup>3</sup>で、徳山白谷をせき止め、高さ約65mの天然ダムを形成しました。

この崩壊地の周辺には人家などの保全対象が存在しなかったため、崩壊による直接の被害は発生しませんが、天然ダムの決壊による洪水により、揖斐川左岸の東杉原地先で護岸施設などに被害が発生しました。

#### 根尾白谷大崩壊



1965年9月14日～15日にかけての集中豪雨により、根尾西谷川支溪八谷の根尾白谷で大規模な崩壊が発生しました。崩壊土砂量は約107万m<sup>3</sup>で、現在も土砂を生産し続けています。

深い渓谷だった根尾白谷は崩壊土砂によって埋塞されて、幅の広い谷に変わってしまいました。しかし、この崩壊による直接の被害は生じませんでした。

# 美しい自然に育まれた、 歴史・文化が息づく憩いの里

標高1,300m級の山々が連なる揖斐川上流域は、清流がつくり出した美しい自然に恵まれています。そして、そこには綿々と続く祭りや伝統芸能などに代表される、豊かな歴史と文化が育まれてきました。そして今も、これらの恵まれた自然や歴史を活かした、様々な地域づくりが行われています。



冠山



能郷白山



上大須ダム



徳山ダム



藤橋城



夜叉ヶ池



夜叉ヶ池伝説道中祭り



坂内バイクラント



能・狂言



淡墨桜



東津汲鎌倉踊り



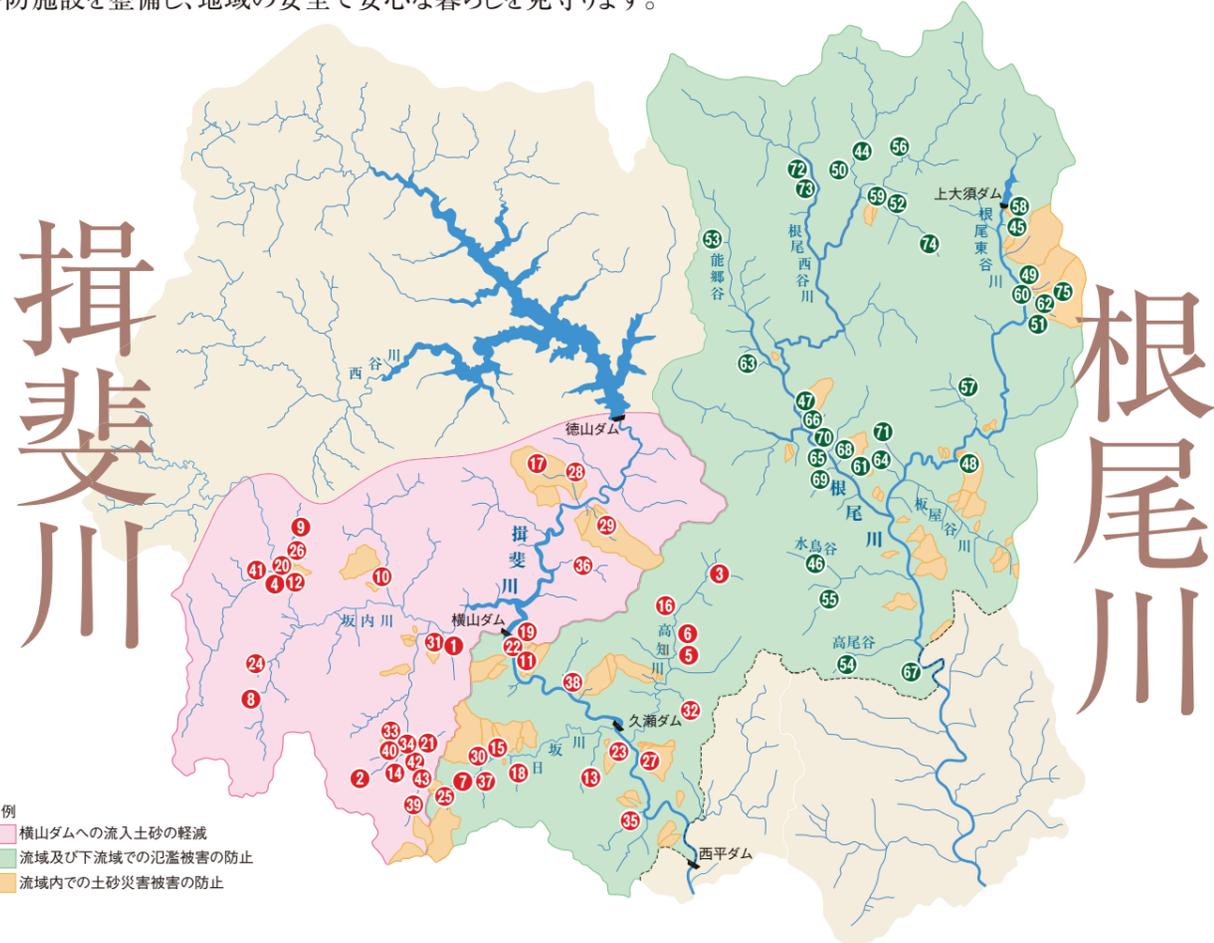
揖斐高原貝月リゾート



いびがわマラソン

## 揖斐川と根尾川の上流域に砂防施設を整備

脆弱な山地に大量の雨が降ることで、大量の土砂が流出する「土砂災害」が引き起こされます。こうした土砂によって家や道路が破壊され、川が埋め立てられて洪水被害を拡大させたりします。これらの土砂災害を防ぐため、越美山系砂防事業においては砂防施設を整備し、地域の安全で安心な暮らしを見守ります。



凡例  
 横山ダムへの流入土砂の軽減  
 流域及び下流域での氾濫被害の防止  
 流域内での土砂災害被害の防止



38 大蔵谷第1砂防堰堤



39 地谷第2砂防堰堤



43 品又谷第2砂防堰堤



46 ヌクミ谷第1砂防堰堤



70 敷原谷第1砂防堰堤



74 越波谷第1砂防堰堤

## 事業開始30年以降に完成した砂防施設

### 揖斐川

番号	堰堤名	完成年月
1	寒谷第1砂防堰堤	1998年 3月
	寒谷第1砂防堰堤(流木対策)	2015年12月
2	新穂谷第3砂防堰堤	1999年11月
3	白倉谷第1砂防堰堤	1999年12月
	白倉谷第1砂防堰堤(流木対策)	2010年10月
4	赤岩谷床固工群	2000年11月
5	小山手谷砂防堰堤	2001年 5月
6	小山手谷床固工	2001年 5月
7	貝月谷溪流保全工	2001年 9月
8	西オノサ谷第1砂防堰堤	2001年12月
9	中又第3砂防堰堤	2002年11月
10	井口谷床固工群	2002年12月
11	木尾谷第1砂防堰堤	2004年 1月
12	赤岩谷第1砂防堰堤	2004年 1月
13	三田倉谷第1砂防堰堤	2004年 3月
14	池ノ谷第1砂防堰堤	2004年 3月
15	宮ノ谷第1砂防堰堤	2004年12月
16	モレ谷第1砂防堰堤	2004年12月
17	西前の谷第3砂防堰堤	2005年 3月
18	前谷第1砂防堰堤	2005年11月
19	梶谷第1砂防堰堤	2006年 3月
20	カツラ洞谷第1砂防堰堤	2006年11月
21	山の谷第1砂防堰堤	2006年12月
22	高谷第1砂防堰堤	2007年 3月
23	西津汲谷第1砂防堰堤	2008年 3月
24	広瀬殿又谷第1砂防堰堤	2009年11月
25	貝月谷第1砂防堰堤	2010年 6月
26	湧谷第1砂防堰堤(流木対策)	2010年10月
27	下谷第1砂防堰堤	2010年11月
28	西前の谷第1砂防堰堤(流木対策)	2012年 7月
29	東前の谷第1砂防堰堤(流木対策)	2012年 7月
30	瀬戸谷第1砂防堰堤	2012年12月
31	琴谷砂防堰堤(流木対策)	2014年 3月
32	下辻谷砂防堰堤(流木対策)	2014年 3月
33	ドン谷第2砂防堰堤	2014年 3月
34	ドン谷溪流保全工	2014年 3月
35	外津汲内谷第1砂防堰堤	2014年 3月
36	矢中谷第2砂防堰堤(流木対策)	2015年 3月
37	和佐谷第1砂防堰堤(流木対策)	2015年 3月
38	大蔵谷第1砂防堰堤	2015年12月
39	地谷第2砂防堰堤	2015年12月
40	大仲津谷第1砂防堰堤	2016年 3月
41	八草山腹工	2016年12月
42	品又谷第1砂防堰堤(流木対策)	2018年 2月
43	品又谷第2砂防堰堤(流木対策)	2018年 2月

### 根尾川

番号	堰堤名	完成年月
44	岩ノ子谷第1砂防堰堤	1997年12月
45	田土谷第1砂防堰堤	1998年11月
46	ヌクミ谷砂防堰堤	1999年 3月
47	岡谷溪流保全工	1999年 7月
48	小鹿谷第1砂防堰堤	2000年 2月
49	鍋倉谷砂防堰堤	2000年 3月
50	岩の子谷第2砂防堰堤	2001年12月
51	和井谷第1砂防堰堤	2002年11月
52	越波谷第3砂防堰堤	2002年12月
	越波谷第3砂防堰堤(流木対策)	2013年12月
53	アラ谷第1砂防堰堤	2003年 3月
54	高尾谷第1砂防堰堤	2003年11月
55	オモ谷第1砂防堰堤	2003年12月
56	河内谷第2砂防堰堤	2003年12月
57	イエ谷第1砂防堰堤	2004年12月
58	内又谷第1砂防堰堤	2005年 2月
59	越波谷第2砂防堰堤	2005年12月
60	大須床固工群	2006年 3月
61	神戸谷第1砂防堰堤	2008年 9月
62	門脇谷第1砂防堰堤	2009年 2月
63	半中谷第1砂防堰堤(流木対策)	2010年 5月
64	下葛谷第1砂防堰堤(流木対策)	2010年 5月
65	エノマ谷第1砂防堰堤	2012年 3月
66	日洞谷第1砂防堰堤	2012年 3月
67	宇津志谷第1砂防堰堤	2013年 7月
68	小砂谷第1砂防堰堤(流木対策)	2014年 2月
69	大井谷第1砂防堰堤(流木対策)	2014年 3月
70	敷原谷第1砂防堰堤	2014年 3月
71	上葛谷砂防堰堤(流木対策)	2015年 3月
72	大河原岡谷第1砂防堰堤	2016年 7月
73	下河原谷第1砂防堰堤	2017年11月
74	越波谷第1砂防堰堤(流木対策)	2019年 3月
75	ミカン谷第1砂防堰堤(流木対策)	2019年 3月

### 流木対策とは

土砂とともに流出する流木による被害を減少させるため、既設砂防堰堤に流木捕捉効果を高めるための流木捕捉工の設置等の改良を実施しています。



和佐谷第1砂防堰堤

## 地域特性に合わせた、砂防施設の整備

土砂災害の性質や形態は地形や地質、気象などの条件によって異なることから、その場に適した対策方法が求められます。そのため、砂防事業を進めるにあたっては、それぞれの地域特性を考慮した最適な砂防施設を計画し、地域の皆様のご意見をお聞きしながら整備を行っています。

### 越美山系砂防事業における主な砂防施設の種類



### 砂防堰堤

上流から流出してくる土砂を貯め下流への被害を防ぎます。

砂防堰堤には、土砂が溜まることによって川の勾配を緩くして、急激な土砂流出を防ぐ働きがあります。また、土砂がいっぱい溜まることによって川の両岸の足元を押さえて新たな崩壊を防ぎます。

#### 不透過型

上流から流出する土砂を堰堤の上流側のポケットで受け止めるもの。土砂が貯まることで川岸の足元が押さえられ新たな崩壊を防ぐことができます。



大仲津谷第1砂防堰堤

#### 透過型

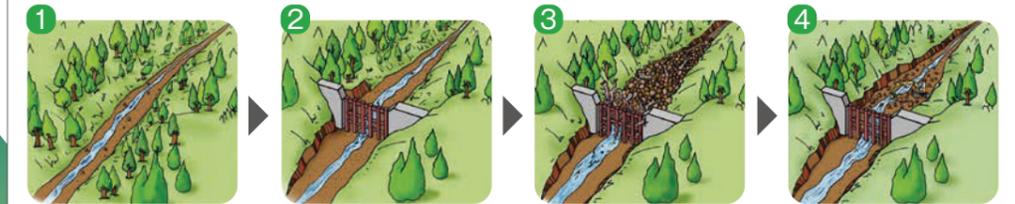
堰堤に隙間があるもので、「スリット砂防堰堤」、「スクリーン砂防堰堤」などがあります。大洪水時の土砂を貯め、その後の小洪水で土砂を下流へ流します。スリットの部分を魚が自由に行き来することができます。



前谷第1砂防堰堤

#### 透過型砂防堰堤のはたらき

大雨が降り土石流が発生したとき、大きな岩、流木などを含む土砂を、堰堤に貯めることで川底の侵食、山腹の崩壊を防ぐとともに一度に大量の土砂が流出するのを防いで下流の街を災害から守ります。



1 水と土砂

2 砂防堰堤を設置

3 土石流の発生

4 たまった土砂や流木を除去

### 山腹工

荒れた山に木や草を植えて、斜面の表面が侵食されるのを防ぎます。



徳山白谷山腹工

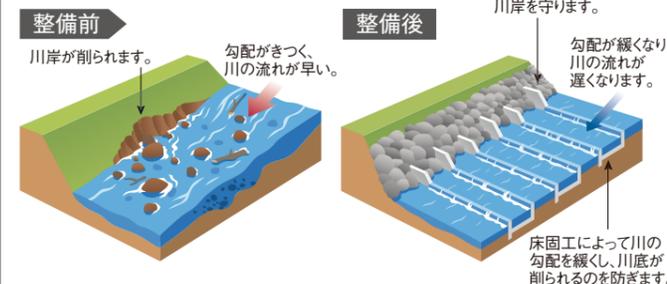
山地は一度荒廃すると、自然のままでは、なかなか元の緑の姿に戻りません。そればかりでもなく、多くの土砂を下流に流す原因にもなるため、できるだけ早く山地の機能を発揮できる状態に戻し、荒れた山腹から崩れ出る土砂を防ぎます。

### 溪流保全工

川底や川岸の侵食を防ぎ、洪水や氾濫が起こらないよう安全な川にします。

川の勾配を緩やかにして川底の侵食を防ぎます。護岸工は、水の流れが集中する川岸を保護し、侵食によって土砂が下流へ移動するのを防ぎます。川のある区間に何基もの床固工を設置したものを床固工群と呼びます。

#### 溪流保全工のはたらき



整備前

整備後

川岸が削られます。勾配がきつくと、川の流れが早い。

護岸により川岸を守ります。勾配が緩くなり、川の流れが遅くなります。

床固工によって川の勾配を緩くし、川底が削られるのを防ぎます。



ナンノ谷床固工群



大須床固工群 (NEO キャンピングパーク)



岡谷溪流保全工

# 土石流を捕捉する砂防堰堤、道路や河川、住居への被害を最小限に食い止めています

砂防堰堤が土石流を捕捉することで、下流の集落への土砂災害を防ぎます。  
 また、河川に入り込んだ土砂が河床に堆積することで洪水や堤防の決壊を引き起こす要因ともなることから、災害を未然に防止することにも役立っています。  
 土砂によって道路が寸断されることで集落が孤立し、深刻な事態を招く場合もあり、土石流を捕捉する砂防堰堤は、地域の安全・安心に欠かせない役割を担っています。

## おっぱ 根尾越波谷での土石流を捕捉



土石流後の河道状況

**被害状況**

2011年8月の集中豪雨により土石流が発生したが、第3と第2砂防堰堤で土石流を捕捉した結果、下流域集落及び道路の被害軽減に効果を発揮しました。

### 越波谷第2砂防堰堤 捕捉状況



下流部より



上流部より(堆砂状況)

### 越波谷第3砂防堰堤 捕捉状況



土石流発生前



土石流発生後

# 再び災害が発生しないように地域の安全を高めています

## 平成20年(2008) 西濃豪雨

9月2日～3日にかけて記録的な大雨となり、揖斐川町東津波にある小津観測所で総雨量579mmを記録しました。この大雨により各地の溪流で土砂流出が発生し、揖斐川町東津波の下谷では土石流により国道303号が約39時間にわたり通行止めとなりました。



土石流により国道303号寸断



下谷第1砂防堰堤 (2010年11月完成)

## 平成22年(2010) 八草川山腹崩壊

1月に揖斐川町坂内川上地内で山腹崩壊が発生しました。崩壊規模は推定で延長約70m、高さ約80m、深さ(鉛直方向最大)約10m、崩壊土砂量20,000m<sup>3</sup>でした。



八草川山腹崩壊



八草山腹工事 (2016年12月完成)

## 平成26年(2014) 土石流

8月に本巢市根尾黒津の雨量観測所で総雨量440mmを観測、本巢市根尾大河原の下河原谷等で土石流が発生し、国道157号線が寸断されました。



土石流により国道157号寸断



下河原谷第1砂防堰堤 (2017年11月完成)

# 全国各地の災害現場に駆けつける、 TEC-FORCEでの災害支援を行っています

大規模自然災害が相次ぐ近年では、かつての様に被災地域だけで対応・処理することが、非常に困難な時代となってきています。越美山系砂防事務所においても、TEC-FORCEの派遣に協力。全国各地の災害現場で、災害応急対策への技術的な支援を行っています。

## 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)とは

大規模自然災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、被災地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的としたものです。

本省、国土技術政策総合研究所、国土地理院、地方支分部局、気象庁に設置され、先遣班、現地支援班、情報通信班、高度技術指導班、被災状況調査班、応急対策班、輸送支援班、地理情報支援班、気象・地象情報提供班より構成されます。

大規模自然災害が発生したときは、被災地にTEC-FORCEを派遣し、被害状況の調査、被害の拡大防止、早期復旧に関する地方公共団体等の支援を行います。



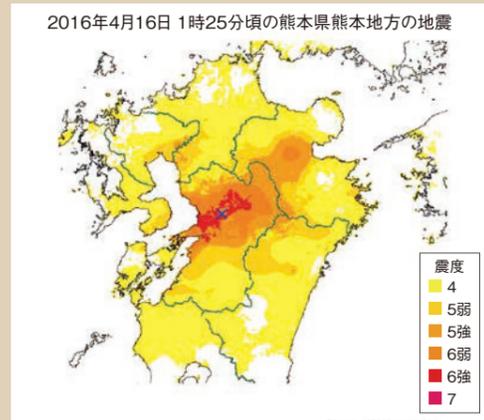
### 活動事例 1 2016年4月「熊本地震」に TEC-FORCEを派遣しました。

#### 〔熊本地震の概要〕

4月14日(木)21時26分、4月16日(土)1時25分熊本県熊本地方を中心に震度7の地震が発生。以降、熊本県から大分県にかけて活発な地震活動が続き、さらに降雨が重なり、土砂災害などの危険性が高まりました。

#### 活動内容

- 被災状況の迅速な把握
- 社会基盤施設の早期復旧
  - ・初動対応の迅速化
  - ・専門チームによる集中対応
  - ・復旧対策に関する技術指導の充実・強化
- 二次災害の防止
  - ・被災箇所に対する高度な技術指導
  - ・応急対策(立案・実施)
  - ・災害危険度予測(避難判断)
- その他災害応急対策
  - ・緊急輸送の調整



出典:気象庁報道発表資料 推計震度分布図

班長会議(情報共有・状況報告)



被災状況調査(急傾斜地崩壊危険箇所)



被災状況調査(土石流危険渓流)



地域住民への聞き取り(情報収集)



九州地方整備局への調査結果報告



### 活動事例 2 2017年7月「九州北部豪雨」に TEC-FORCEを派遣しました。

#### 〔九州北部豪雨の概要〕

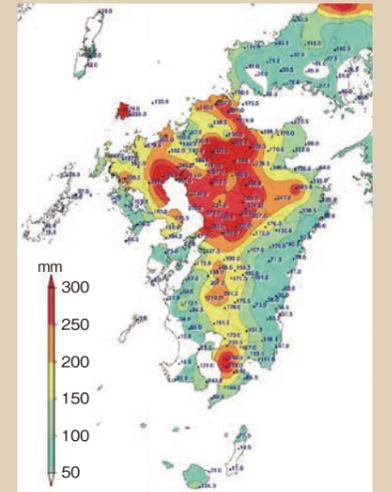
7月5日から6日にかけて福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨、記録的な大雨となりました。

当事務所からもTEC-FORCEとして、7/7～7/13まで砂防調査班職員3名を派遣しました。

大雨により被災を受けた福岡県朝倉市を中心に土砂災害対応の危険度を調査し、結果を地元自治体や西日本高速道路(株)へ報告し迅速な災害対応に役立ててもらいました。

#### 活動内容

- 活動班として派遣され調査
  - ・山腹崩壊などの延長・崩壊幅・傾斜角度・土質・流木などの堆積状況
  - ・河川護岸などの施設・河川への土砂流出状況・流下能力・異常な水位痕跡
  - ・幅広い範囲に及ぶ道路寸断箇所
- 報告説明
  - ・調査結果と危険度・対策などの考察を報告書にまとめ朝倉市役所へ説明



出典:アメダス総降水量の分布図(7月5日～7月9日) 福岡管区気象台提供

調査内容報告



被災状況調査(河道状況)



被災状況調査(渓流状況)



被災状況調査(河道状況)



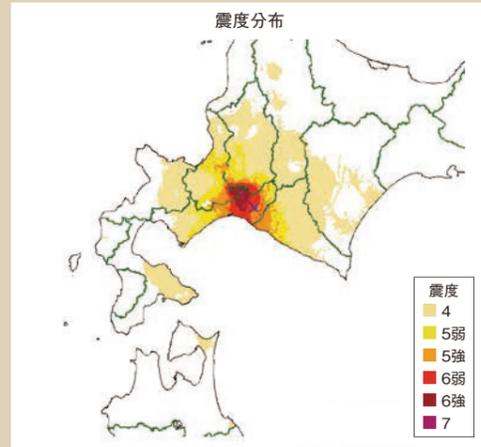
活動事例  
3

2018年9月「北海道胆振東部地震」に  
TEC-FORCEを派遣しました。

〔北海道胆振東部地震の概要〕

9月6日3時7分、北海道胆振地方中東部を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生。北海道で初めての震度7を観測しました。各地で土砂災害、家屋の倒壊、液状化現象が発生し、広域的な停電もありました。

当事務所からもTEC-FORCE(第一陣)として、9/6~9/12まで砂防調査班として3名派遣しました。速やかな派遣要員の人選や装備品を日常的に管理していたことにより発災から17時間後には事務所を出発しました。



出典:気象庁報道発表資料 推計震度分布図

活動内容

- 土砂災害危険箇所の変状調査
  - ・三笠市内の溪流、急傾斜地、地すべり箇所の変状調査
  - ・ドローンによる広域的な状況調査
  - ・SNSを活用し活動内容等の迅速な情報発信
- 調査結果の報告
  - ・北海道庁へ調査結果を報告 (B判定2箇所、C判定99箇所)

ドローンによる調査



班長会議



地域住民への聞き取り



被災状況調査(急傾斜地崩壊危険箇所)



被災状況調査(土石流危険渓流)



その他にも大規模災害の被災地で活動しています。

- 広島のと砂災害 2014年8月 3名派遣
- 御嶽山噴火 2014年9月 3名派遣 他

地域の未来づくりに向けて、  
様々な広報活動を展開、実施しています。

砂防事業の最大の目的は、土砂災害を防止することで「地域の安全で、安心な暮らし」を実現することです。その一方で、地域の皆様と連携することで、地域の未来づくりに貢献する、あるいは災害への備えとしての防災意識の向上を担うことも、大切な役割であると考えています。

施設づくり 地域活性化の核となる施設づくり

景観に配慮した砂防施設づくり

貝月谷溪流保全工

地域リゾートの支援を視野に入れ、自然木・巨石をそのまま生かすなど、自然環境との調和に配慮しました。階段状に組まれた自然石が上流から下流まで、自然の様に配置されており、周囲の環境と一体となっています。



バイクランドと公園整備

ナンノ谷床固工群

1895年に起きたナンノ谷大崩壊により甚大な被害を受けた箇所で、土砂が流れ出して下流に被害が無いように床固工及び護岸工が施工されました。この地区は、坂内バイクランドの整備と関連づけ、地元の方々と協働で公園整備を行ないました。



砂防堰堤に魚道を設置

山の谷第1砂防堰堤

「山の谷第1砂防堰堤」は、たて型壁面魚道を含む3種類の魚道を設置。魚が移動しやすい環境を保全しています。



ダムを裏から眺める散策路

鷺巣谷第1砂防堰堤

地元が進める淡墨公園構想の拠点の一つとして整備。管理用と散策路を兼ねた通路をダム直下に設け、流れ落ちる水を裏から眺めることができる構造は日本で初めてのもので全国公募により「うすずみの滝」と名付けられて親しまれています。



広報活動 地域の方々と創りあげる

里山探検隊

里山探検隊は、揖斐川流域の方を対象に会員を募集し、上流域の山間部で生活されている人々の暮らしや文化に直接触れると共に、その交流を通じて、山と水との関わりや水源地保全及び防災の大切さを理解していただく、学習の場として実施しています。



砂防学習会

地元小中学生を対象に、現地での体験学習を通して、土砂災害防止に関する知識を身につけ、防災に関する意識を高めてもらうことを目的に実施しています。



SABOカード

越美山系砂防事務所では、砂防事業開始から50年にあたり、砂防堰堤等に関心を持っていただくとともに、土砂災害防止と砂防事業に対する理解をより深めてもらうため、9種類の「SABOカード」を作成しました。

越美山系砂防事務所が開催する各種イベントに参加された方を対象に無料で配布しています。



地域イベントへの参加

越美の管内には、多くの祭りやイベントが開催されています。越美山系砂防事務所も参加して地域を応援しています。



広報誌、ホームページ

越美山系砂防事務所の仕事をご理解いただくとともに、揖斐川上流の自然、文化、地域活動を紹介する広報誌「クマタカ通信」を発行しています。ホームページでは、より詳しい事業内容を紹介しています。



砂防事業50年記念式典及び講演会の開催  
2018年11月18日

これまで当事務所が担ってきた越美山系の砂防事業を振り返ることにより、事業に御尽力、ご協力いただいた関係各位に感謝の意を表するとともに、揖斐川流域住民の安全・安心を守るための今後の事業遂行に一層のご支援、ご協力をいただくため、「揖斐川流域の暮らしを守り続ける越美砂防」と題して記念式典を挙行し、講演会を開催しました。

中部地方整備局長の式辞、揖斐川町長による主催者挨拶、地元関係国会議員を始め来賓からの祝辞、越美山系砂防事務所長の事業紹介等がなされました。

また、本業市根尾小学校の5年生と6年生の児童が協力して題字を書いた2019年3月竣工の2つの堰堤の銘板の披露が行われ、同式典は祝賀ムードに包まれました。



記念式典 銘板の披露

式典終了後、防災講演会が開催されました。講演者はNHKの「おはよう東海」で気象キャスターを務める岡安里美氏です。「気象災害から命を守る！～土砂災害に備えた気象情報の活用～」という演題で1時間の講演を行いました。



気象キャスター 岡安氏



防災講演会

奥越豪雨50年防災講演会  
2016年1月20日

1965年9月の奥越豪雨から50年を節目の年とし、「過去の災害から学び、備える」をテーマに、防災講演会を開催しました。



講演会場

- 奥越豪雨の紹介 越美山系砂防事務所
- 講演 「土砂災害から身を守る」  
岐阜大学名誉教授 木村 正信 氏
- 「災害経験者の体験談」  
元坂内村長 田中 正便 氏  
元根尾村長 所 和徳 氏
- 「大規模土砂災害への対策」  
越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記



木村教授

砂防事業40年記念行事の開催

- 防災講演会 砂防事業40年を記念し、砂防講演会を開催  
・2008年10月22日 谷汲サンサンホール
- ・事業説明 「越美山系砂防事務所40年のあゆみ」  
越美山系砂防事務所長 廣野 一道
- ・基調講演 「最近の砂防行政について」  
国土交通省 河川局 砂防部 砂防部長 中野 泰雄 氏
- ・特別講演 「江戸時代の揖斐川の治水・利水」  
揖斐川町 文化保存協会 会長 粟野 守之 氏
- 現地見学会の開催  
・2008年10月23日  
事務所管内の複数の砂防堰堤、崩壊地、道の駅等を巡る見学会を開催

高地谷第1砂防堰堤工事 起工式 2016年10月27日

工費・工期の削減を目指した「砂防ソイルセメント工法」では日本最大級の高地谷第1砂防堰堤の起工式を開催しました。



埋納の儀



齋饗の儀

防災訓練

越美山系大規模土砂災害合同防災訓練

大規模土砂災害(天然ダム、地すべり、同時多発的に発生する土砂災害)を想定し、市町・岐阜県及び国土交通省等の関係機関との連携・各防災担当者の災害対応能力の向上のために、合同防災訓練を実施しています。



訓練のポイント

1. 情報収集・伝達、関係機関との情報共有

土砂災害情報等の収集・伝達・共有の対応

2. 災害対策本部、支部の適切な運営

災害関連情報の内部周知、越美山系大規模土砂災害危機管理連絡調整会の開催

3. 大規模土砂災害対応能力の向上

迅速な緊急調査・応急対応等、復旧、支援活動

4. 適切な警戒避難対応

警戒避難計画、避難勧告等発令、避難誘導

5. 広報に関する対応

住民等からの問い合わせ対応



越美山系砂防事業50年記念誌の発刊に向けて、事業開始30年以降に歴任された事務所長の方々にご協力を賜り、在任当時の思い出や印象に残るエピソード等ご執筆頂きました。諸先輩方のお言葉を参考に今後の砂防事業に活かしてまいります。

越美砂防の思い出



十二代事務所長  
秦 耕二  
1998～1999

1. 事務所の建て替え

インドネシアから越美砂防に赴任しました。越美での在任期間は2年弱だったのですが、その長くない間に新しい事務所の着工式と竣工式の両方に携わらせていただきました。

ただ着任したときは新庁舎の基本設計は出来上がっていましたので、危機管理のための控え目な工夫しかできませんでした。それでも万が一の災害に備えてシャワー、風呂、仮眠のための畳の部屋(3室)と大きめの炊事場を作りました。これらの設備は使うことが無いのが一番なのですが、一旦大事が起こると必要不可欠なものになります。

2. 皆様の支え

私のような凡庸な者でも職員さん達にしっかり支えていただきました。お陰様で事務所の体制も整いました。

更にありがたいことに、岐阜県や管内町村ともフランクな意思疎通が出来たと思います。

現場に行った帰りには、長靴のまま町村長様の執務室に入り込んで雑談をしました。そのような場こそ地元の本音が聞ける場でした。

皆様、本当にありがとうございました。



十三代事務所長  
田井中 治  
2000～2002

在任当時の一番の思い出と言えば、仕事ではなくて恐縮ですが、揖斐川マラソン(フルマラソン)で町民1位となり、姉妹マラソンである、アメリカユタ州で開催されるセント・ジョージマラソンに派遣してもらったことです。当時、住民票を移動しないと単身赴任手当てが支給されないと思っていたため、揖斐川町民となっていたのがよかったです。宗宮町長、町議会議員、商工会議所、揖斐川マラソン総合優勝者らと共に渡米し、ホームステイしながらマラソンを走りました。女子の町民1位は徳山ダムの若い技術者でした。マラソンは越美砂防に赴任する4年ほど前に始めたのですが、赴任してからは、昼休みに城台山公園周辺の山道を約7キロ走り、夜はマラソンミュージアムまでの道を往復していました。セント・ジョージマラソンの半年位前からは、週に1回、昼7キロ、夜35キロを走りました。この練習のおかげでタイムが伸び、セント・ジョージマラソンは自己ベストの2時間58分で走れました。特に、山道を走ることが効果的であったと思います。

仕事に関しての思い出と言えば、確か夜の10時ごろから時間100mmを超える雨が2時間続き、数時

間無降雨の後、明け方に今度は時間80 mmを超える雨が3時間続いたことがありました。この時は大変なことが起こっていると覚悟しました。朝事務所にいき、「まんなか号」を呼んで調査を行いました。そうすると意外なことに、河床堆積土砂の再移動は何箇所も見られたものの、新規崩壊箇所は全くありませんでした。事務所に帰ると本省から、「お前とこの事務所は大変なことになっていると思うから、土研から担当者を2人派遣した。」と電話があったので状況を説明したところ、「もうそっちへ向かっているから何か調査してもらえ。」ということでした。結局土研の2人には、酒を飲んで帰っていただきました。実は、時間100mmの降雨はランニング中に降り出したのですが、雨の降り方としては、2時間の間平均して降っているような感じで、雨量強度はそれほど大きいとは感じていませんでした。その経験から、崩壊、特に表層崩壊は、10分間あるいはそれ以下の、短期雨量の影響が大きいのではないかとこの教訓を得、以後の仕事に活かすことができました。

越美山系砂防事務所が50周年を迎えましたこと、心からお慶び申し上げます。

さて、私が越美山系砂防事務所長の辞令を受けたのは、平成15年5月16日でした。その時には北海道開発局旭川開発建設部に勤務し、家族と一緒に旭川におりましたので、揖斐川町にはとりあえず私一人で赴任しました。

私が事務所長の頃には全国で市町村合併が進められており、任期中に根尾村は本巢市に、藤橋村、坂内村、久瀬村は揖斐川町に合併し、事務所管内は1市1町となりました。また、地方分権の議論が喧しい頃でもあり、国の直轄事務所のあり方について問われている頃でもありました。

そこで、私は、まず地元を良く知り、その上で事業展開を図ることが大切だと考えました。旧徳山村も含めて管内各町村史を紐解き、その歴史や文化を学んだのが私の越美時代だったと思います。その結果として出来たものが、東海自然歩道(谷汲～久瀬～春日)の散策マップであり、山郷(やまくに)倶楽部でありました。

散策マップは東海自然歩道のうち、旧谷汲村から旧久瀬村、旧坂内村を経て旧春日村までの区間をマップにしたものです。これを製作するにあたり、職員

と一緒に谷汲から春日まで実際にそのルート歩いてみました。何日かに分けて歩いたと記憶しています。マップにはその沿道の事物のほか伝説等を盛り込むよう心掛けました。このマップは揖斐川水系でしたので、根尾川水系の方は幕末の天狗党のエピソードに合わせ、蠅帽子峠を含めたルートを計画しましたが、結局これは実現しませんでした。

山郷倶楽部は、下流域に住まう方々に山間地域の人々の暮らしに触れることによって、「山」と「森林」と「水」の大切さを知り、合わせて砂防事業とダム事業を理解して貰おうと企画したものです。前述の散策マップを使いながら山道を歩いたり、当時建設中の徳山ダムを見学したりしました。

私の越美山系砂防事務所での勤務は約2年11ヶ月でありましたが、中山間地域がどのような歴史や文化のもとに存在しているかをじっくり考えさせて貰いました。そして、中山間地域で展開する砂防事業の姿勢を改めて学ばせて貰った時期であったとも思います。

## 越美山系砂防事務所の思い出

越美山系砂防事務所50周年おめでとうございます。私は平成23年7月～平成25年3月まで在職させていただきました。

私自身初めて事務所長となり、不慣れな点も多く、皆様にご迷惑をおかけしたと思いますが、事務所職員皆さんの御力と揖斐川町・本巢市をはじめとする関係機関の御協力、地元建設会社の御尽力があつて、何とか無事勤めることができたと思います。この場を借りまして、改めて感謝申し上げます。

私が着任した平成23年は、新燃岳噴火、東日本大震災、紀伊半島大水害をはじめ災害の多い年であり、事務所長も含む事務所職員がTEC・FORCEとして、災害対応の支援にあたりました。特に、土石流被害のあった和歌山県那智勝浦町の支援に赴いた際には、那智勝浦町と揖斐川町が観光で協力関係にあったこともあり、その揖斐川町にある事務所からの支援ということで、両町長に大変喜んでいただいたことが印象に残っています。

また、平成24年には「ぎふ清流国体」が開催され、揖斐川町はソフトボールとカヌー、本巢市は軟式野球

の会場となりました。岐阜県内にある国土交通省の各事務所も岐阜県や各市町村と連携し、国体を盛り上げようと一丸となって、国体のPRや関連インフラ整備などの支援を行いました。この支援を通じて、県内事務所が首長や県幹部等と議論を行う体制が深まり、その後、様々な地域振興策の立案・実現につながっていったと考えております。

事務所の業務で特に印象に残っているのは、広報分野です。これまで広報に携わってこなかった職員も、積極的に取り組んでいただき、出張所がメールマガジン「クマタカ通信」、総務課がインフラツアー「里山探検隊」など、様々なアイデアを出して実行していただきました。広報を通じて、事務・技術の垣根を越え、事務所一丸となって取組むことができたと思います。

これ以外にも、様々な思い出がありましたが、紙面にも限りがあるので、最後に、揖斐川流域の安全・安心、ますますの発展を祈念しつつ、筆を置かせていただきます。



十七代事務所長  
佐藤 保之  
2011～2012



十四代事務所長  
神野 忠広  
2003～2005

## はつしも、いび茶、三輪屋のお菓子など

私の在任期間は2009(平成21)年4月～2011(平成23年)6月。家族帯同で揖斐川町の生活を楽しんだということが全般的な印象で、まず思い出すのは、はつしも(お米)、いび茶、三輪屋のお菓子など、おいしかった食べ物のことです。

宿舎の近くにJAの農産物直売所があり、お米はいつも「はつしも」の特産米をその場で精米してもらって購入していました。精米したてだったからかもしれませんが、私にとってはこれまで食べた米のなかで一番おいしかったです。本省からのお客さんが事務所近くの定食屋のご飯が大変おいしいと言って2杯ぐらいおかわりされたこともあったので、揖斐川町の「はつしも」は客観的にもおいしい米なのだと思います。

いび茶は、事務所から少し北の谷汲へ向かうトンネル手前の茶畑の中に「いび茶の里」という直売所があって、いつもそこで買っていました。全国にはもっと有名な茶所が多くありますが、我が家の評価としてはいび茶が最高のままです。実は、今でも我が家のお茶は「いび茶の里」から取り寄せています。

三輪屋は、池田町方面から北上してくる国道417号と、東西の国道303号とのT字路あたりにお菓子屋です。代々続いているお店のようで、お店で作られた季

節感溢れる和菓子和洋菓子が種類豊富に並んでいました。好みの問題かもしれませんが、都会でもなかなか出会うことのないおいしいお菓子ばかりでした。

三輪神社の春のお祭りでは各町内から立派な山車が出され、当番町内の山車の上では子供歌舞伎が演じられていました。私の子供(小学校低学年と幼稚園生)も地元の下新町町内の山車に乗せてもらいましたし、子供歌舞伎の完成度の高さはとても印象に残っています。

私生活の話ばかりになってしまいました。仕事については、宗宮孝生揖斐川町長と藤原勉本巢市長をはじめ地元の皆様の暖かいご支援ご協力が大変有り難かったです。その宗宮孝生様の昨年4月の突然の訃報には大変なショックを受けました。まだまだご活躍いただきましたかったです。心よりご冥福をお祈りいたします。

仕事関係で印象深かったことの中から紙面の範囲内で一つだけ。豪雪地帯の冬の現場の大変さです。真冬に発生した八草川の山腹崩壊対応や、工期が冬場にかかってしまった繰越工事の工事進捗のため、雪の中で奮闘する地元建設業やコンサルタント技術者の皆様に、頭の下がる思いをしながら、応急対策や工事の進捗を日々祈っていたことを覚えています。

## 越美山系砂防事務所の思い出

越美砂防の素晴らしい点は、「直轄砂防事業の技術力」を高めるのに最も適した場所であるという点にあると思います。

「直轄の技術力」というと、「行政とは資金を供給したり方針を示す立場で、実質的な技術力はコンサルタントや施工業者にあるのではないかと、なかなかピンとこない方もいらっしゃると思いますが、私は、インハウスエンジニアの技術力の本質は、全体を俯瞰するとともに細部に焦点を合わせ、問題を正しく認識して予定された期日にプロジェクトを完遂させる能力、あるいは行政のニーズに即した新技術を拾い上げて標準化し、世の中全体の生産性を上げる能力であると考えます。そしてその優劣こそが、都道府県や民間には持ちえない、「直轄の技術力」であります。

そして越美砂防は、比較的現場が近くすぐに駆けつけて確認できる環境、優秀で意識の高い施工業者、そして典型的な中山間地で、全国の多くの地域の砂防事業と共通の課題を持つことなど、様々な点で「直轄の技術力」を高めるのに絶好の場所だと思っています。越美砂防の職員の皆様には自信を持って中部地整を、国土交通省を引っ張っていただきたいと思っています。

手前味噌で恐縮ですが、優秀な職員の皆様のおかげで、このような私の思いの実現に取り組むことができ、2年間とても有意義に過ごすことができました。高井・小関・小島係長他のみなさんに他事務所へ先駆けてドローンやウェアラブルカメラを導入してもらったり(熊本地震時、山本課長に撮影してもらった映像は、石井国交大臣にも見てもらいました)、両出張所長・総務課他のみなさんの尽力で、徳山白谷・根尾白谷の観光ルートをつくらせたり、三浦・片桐副所長、石原・山村工務課長、伊藤係長他のみなさんに工夫してもらい、災害時の緊急対策も目的としたコンクリートブロックを作ったり(実際にH30.7豪雨対応で役立ったと聞きました)、所内調整会議メンバーのみなさんと、毎月プロジェクトの進捗について議論したり、とにかく楽しい2年間でした。

下野宿舎近くの畑を借りて作った野菜を、皆さんもらってくれてありがとう(毎回配ってくれた千葉係長は特に)。職員の皆様には大変お世話になりました。越美山系砂防事務所と職員の皆様のみなさんのご発展を祈念しております。

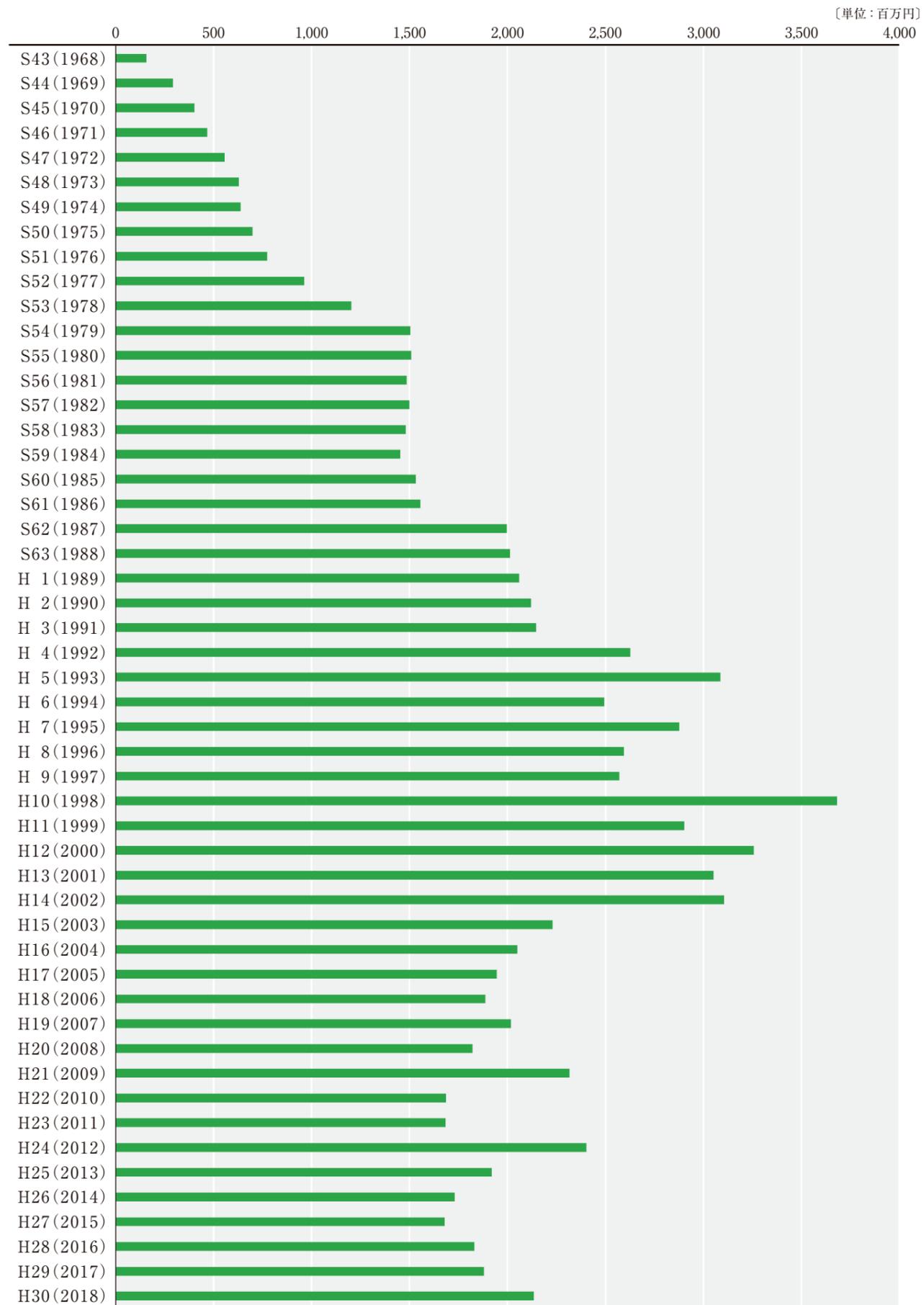


十九代事務所長  
伊藤 誠記  
2015～2016



十六代事務所長  
田村 毅  
2009～2011

# 事業費の推移



※H20年以降の事業費は業務取扱費を除く

## 編集後記

1968年、砂防事業の開始に伴い事務所が発足し、2018年に50年を迎えることができました。これも偏に、地域の皆様を始めとする関係者のご協力・ご支援の賜物と心より感謝申し上げます次第です。

ご存知のように、この地域で砂防事業が開始される契機となったのは、1965年に起きた徳山白谷大崩落と根尾白谷大崩落という、二つの大崩落によるものです。この大崩落を引き起こした原因の一つとされるのが、これより遥か70年以上も前の1891年に発生した濃尾地震であり、その後の集中豪雨によって地盤が緩んだ結果であると言われています。

濃尾地震からすでに120年以上も過ぎ、現在では南海トラフによる東海、東南海、南海の巨大地震発生の危険性が警鐘されている中、未曾有の土砂災害に備えることも、この地域に住む皆様の大切な課題ではないかと考えます。

本書は、50年の歴史を振り返りつつ、そうした皆様の未来の地域づくりについてもお役に立つことがあるかと存じます。今後とも、砂防事業への変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 越美山系砂防事業50年記念誌

2019年発行

[発行] 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所

〒501-0605

岐阜県揖斐郡揖斐川町極楽寺137番地

TEL.0585(22)2161(代表)



## 越美山系砂防事務所

〒501-0605 岐阜県揖斐郡揖斐川町極楽寺137番地

- ◆代表 総務課 TEL.0585-22-2161 FAX.0585-22-2174
- ◆工務課 TEL.0585-22-2162 FAX.0585-22-6971
- ◆調査課 TEL.0585-22-2163 FAX.0585-22-6971

越美山系砂防事務所ホームページ

<https://www.cbr.mlit.go.jp/etsumi/>